

# 美唄市財政健全化計画（素案）等に対するパブリック・コメント

## 意見募集期間

平成 20 年 11 月 4 日（火）～ 12 月 10 日（水）

## 意見提出件数

14 件（13 人、1 法人）

## 提出方法

提出方法	件 数
説明会の会場で提出	4 件
窓口提出	6 件
Fax. による提出	3 件
e-mail による提出	1 件
合 計	14 件

## 提出意見(提出順)

1

- ・実現性のある予算を立てて欲しい。後ろ向きな計画ばかりでなく前向きな工夫を望みます。
- ・緊急を要するもの、教育、健康に関する件はカットしないようお願いします。（体育館、プール、生活館等の現状維持を希望します。）
- ・市立病院の経営を基本的に考え直して欲しい。なくしても良いのではないか。

\* \* \* \* \*

2

公立病院特例債を借りるために公立病院改革プランを提出とあるが、改革プランの素案作成時点で記載されている背景がどう変化しているのか、あるいは変える見とおしについて説明がない。内科の入院も出来ない状況の中で、病床を削減したのみで病院経営の収支が改善されると言える根拠が薄弱である。つまり、医師の確保についての努力について不明である。これが最重要である。

職員と職員給与の削減は予算の 15% で当面止むを得ない。さらに議員数削減、報酬の減額について検討する必要があることを強調したい。

\* \* \* \* \*

3

- 1 病院利用状況の現実をどう考えているのか。例)市内の医療機関(市立・労災)以外の占める割合 なぜ美唄で可能なものによそへ行く？
- 2 美唄市民が受けている医療行為の支出割合が増加している？
- 3 医療の売上げ(美唄市民が病院にかかっている - 支払っている金額)の推定は？ そのうち市外で支出されている分はどのくらい？

\* \* \* \* \*

4

説明会に出席して非常に寒々として気持ちでした。市立病院がこんなに大きな赤字になるまでおいたことに不満。院長は一体何をしていたのか。あまりに責任は何も感じられないと思う。市長さんに、ピンチの時こそチャンスという言葉があります。美唄として大切にしたいことが何なのか、何も感じられません。美唄にしかない産業や施策は大いに活用して、市民の気持ちが一致して活性化した市になるように。あまりに官僚的な対応に思えました。協力は惜しみません。

\* \* \* \* \*

5

病院の実質借金は41億円ですね？この内返すあてのない借金が23億円ですね？H20に8億の企業債を入れて、毎年 $(41 - 19) \div 7 = 3$ 億円  $8 \div 7 = 1.2$ 億円 計4.2億円の償還となる？100円の経費かけて70円の収入と考えていいですね。

今の市役所にも議会にも病院を経営するのは不可能でしょう。できるのならもっと早くに手を打たはず。病院を残すなら、コンサルタントに任せるか、民営化にするか、岩見沢や砂川に搬送を前提にして考えるか、そちらにベッドの確保をお願いして、軽症患者は市内の民間病院に任せる。市民はできないことを希望はしない！！

PS. 経営責任を誰も取らず、市民にツケをまわす事が問題。きっと計画どおりにはいかず、借金をふやす事になるでしょう。

\* \* \* \* \*

6

・計画や実情を文書化する担当者は、頭をひねるのですが、役所の全員がそれを学習、自覚しなければ意味がない。緊張感や悲壮感は市民には伝わって来ていません。給料カットも文句や愚痴だけでは、これも実情と認識しなければ。市長のやることでなく、みんなでやらなければと考えたら、市民も理解すると思う。

・町は税金が安いから家を建てるならあそこにと聞きます。美唄は地価は安い、JR特急は30分間隔で停まります。宅地造成して人口増を考えてはと思う。固定資産税なんか上げたら、ますます人は来ない。

- ・市立病院の4階、5階をケア付マンションにできないかなあ。老人が喜ぶと思う。
- ・バス路線からはずれている車のない市民(老人)はタクシーになります。さらりと回答するのではなく、よく実態を把握してほしい。
- ・市長さん、出前懇談会をやっているとおっしゃいましたが、実例ありますか。
- ・大きな改革でなくても良い。

\* \* \* \* \*

7

#### < 財政健全化計画 >

三井美唄幼稚園の幼保一元化には賛成ですが、従来の保育所の保育の質は保って下さい。全国の一元化の例をみると、保育サービス(保育所としての運営方針・保育内容)の切り下げが非常に多いです。それが不安です。

#### < 市立病院改革 >

労災病院と市内の開業医でまかないきれない診療科のみを中心とする診療所への縮小を提案します。労災と重複する整形外科、週1日非常勤医師のみで診療する耳鼻科、眼科は廃止してもよいと思います。中途半端な「かたちだけの総合病院」には意味がないと思います。

\* \* \* \* \*

8

財政健全化改革に於ける「固定資産税の見直し」は、在住企業の弱体化を促進させるものであ

ります。固定資産税は、その企業の収益力に関わらず保有する資産に一律に掛かる税金であるという性質から、経営状態が厳しい中小企業にとっては、更に利益を圧迫するものです。私どものようなゴルフ場(リゾート産業)は、固定資産の保有率が他事業に比べて非常に大きいわけですが、今年8月には総務省より「固定資産評価基準」が改正になり多くの市町村において固定資産税軽減の動きが活発化しており、当ゴルフ場もその対応に期待を膨らませておりました。

美唄市は、広大且つ平坦な、北海道らしさを特徴とする地域であります。その特性を活かすべく誕生した産業の一つがゴルフ場(リゾート産業)であるのではないかと考えます。

私どもは、地域活性化が、地方財源改善の最大の手段であると認識しております。その為には、官民が一体となって地域の産業を育て、地域住民の雇用を安定化することで、税財源の健全化が図れるものではないかと考えます。

以上、僭越ではございますが、固定資産税の見直しにつきましては、よくよく吟味のうえご寛容なる措置をお願いさせていただきます。

\* \* \* \* \*

## 9

### 意見の概要

初めに、美唄市の財政危機にあたり、詳細な資料を作成し、財政の健全化を図ろうとしている関係各位のご努力に感謝申し上げます。

私は、美唄市の発展を願うものですが、「美唄市財政健全化計画」(素案)について、5つの意見を述べました。詳しくは、「市立美唄病院の経営と財政健全化について」を見て下さい。なお、当面する財政危機への対応も必要ですが、長期的視野での財政健全化と地域再生の政策が必要であることから、「財政健全化と地域再生について」を合わせて提言しました。

「市立美唄病院改革プラン」(素案)については、6点意見を述べました。詳しくは、「市立病院の経営と地域医療の見直しについて」を見て下さい。

「構造改革」に基づく「地方行革」=地方切り捨てが進行し、地域経済の疲弊、社会保障の後退、財源確保の困難など、地方の諸問題が浮き彫りになってきています。この要因に政府の誤った政策が大きく関係していることは明らかですが、一方、地方に於ける自主的な政策能力が問われていると思っています。

～市立病院の経営と財政健全化について～

#### 1 財政危機に至った要因

市立美唄病院の不良債務の増大や財政悪化は当該自治体にも責任があるが、その要因は、主として、政府・与党の社会保障・医療の切り捨てと閉山後の対策、イ国主導の公共事業の押しつけと地域振興、ウ地方切り捨ての「地方行革」や「三位一体の改革」による歳入減などにある。従って、市は、国・道に対して、地方切り捨ての「地方行革」を止めさせ、地方交付税の増額を求めるべきである。

#### 2 市立病院の経営と地域医療の見直し

財政健全化を考えるにあたっては、23億5千万円の不良債務を抱えている市立病院の経営と地域医療の見直しをどうするかがまず問われる。市立病院(自治体病院)の役割は3つある。ア患者さん、地域住民の治療や健康を守っている。イ地域の医療機関へのサービスで、診療所や病院が自分のところでは難しいという患者を受け入れる。ウ学校、行政、企業などを含めて、地域社会に貢献している(全国公立病院連盟会長・邊見公雄)。病院の経営改善は必要だが、赤字だから悪い病院というわけではなく、医療の質という視点が必要である。地域のセーフティネットともいえる市立病院を中核病院として、住民の命と健康を守る役割を果たすようにすべきである。

市立病院の改革については、別紙「市立病院の経営と地域医療の見直しについて」を参照

#### 3 当面する財政危機への対応

3年後の2011年には、実質赤字比率と連結実質赤字比率で再生団体に陥ると予想されるなど、本市にとって財政健全化は緊急の課題になっている。今日の財政危機を迎えるに至った要因や財源捻出などに時間をかけて検討すべきだが、事態の緊急性（病院特例債の申請など）もあり、当面する財政危機への対応としては、行政、議会、市民が一丸となって財政健全化に向けて努力すべきと考える。

ただし、市が捻出しようとしている41億円の具体的項目については、納得しがたいところが多々ある。低所得者や社会的弱者には極力負担をかけず、不要不急の事務事業の見直しを重点に具体的項目を定めるべきである。

これからの8年間、行政（病院）と議会は、今回の提案による市民の不満、苦しみ、怒り、批判を真摯に受け止め、負担を軽減できるような成果が得られるよう努力がなされるべきである。

#### 4 財政健全化と地域再生

市は、今回のように問題が発生すると、国の指針に基づいて当面の財政健全化計画を策定することになる。こういうその場その場の対応ではなく、美唄市の財政を健全財政にしていくには何が必要か、財政危機に至った要因について自主的に検討すべきである。過去の施策の有効性や問題点などを今日的に総括し、財政健全化と地域再生について、市民の目線に立った政策づくりを行うべきである。

自主的な政策づくりについては、別紙「財政健全化と地域再生について」を参照

#### 5 市民の要求と総意に基づく行政の転換

市にとって重要な市立病院の経営と財政健全化に関する市民説明会は短時間で終わらせられようとしている。市民の間では、ただ説明を受けるだけの「アリバイづくり」の説明会といわれている。

主権者である住民が地方政治に積極的に参加し、その要求と総意を行政に反映することが地方自治の本来の姿である。そのためには、市は「美唄市まちづくり基本条例」で市民主体のまちづくり（第7条）情報の共有（第8条）協働のまちづくり（第9条）などを定めている。今後は、まちづくり基本条例にあるように、情報公開と市民参加を広げ、市民の要求と総意に基づく行政に転換していかなければならない。

～市立病院の経営と地域医療の見直し～

#### 1 経営危機に至った要因

市立美唄病院が経営危機に至った要因は、当該自治体にも責任があるが、主として、政府・与党の社会保障・医療の切り捨て政治にある。従って、市は、国・道に対して、医師の増員・派遣、診療報酬の改悪見直し、交付税の増額などの財政措置を強く要求すべきである。

#### 2 住民の命と健康を守る市立病院

市立病院（自治体病院）の役割は3つある。ア患者さん、地域住民の治療や健康を守っている。イ地域の医療機関へのサービスで、診療所や病院が自分のところでは難しいという患者を受け入れる。ウ学校、行政、企業などを含めて、地域社会に貢献している（全国公立病院連盟会長・邊見公雄）。病院の経営改善は必要だが、赤字だから悪い病院というわけではなく、医療の質という視点が必要である。地域のセーフティネットともいえる市立病院を中核病院として、住民の命と健康を守る役割を果たすようにすべきである。

#### 3 市に必要な地域医療機能の確保

政府は、社会保障費の毎年2,200億円の削減をかけた、国と自治体の福祉の予算を減らす「自治体リストラ」を推進しようとしている。医療では「経営効率化」として、自治体病院の規模の縮小と再編を図ろうとしている。道の「地域医療連携構想」や国の「公立病院改革ガイドライン」の縮小・再編計画に安易に乗るのではなく、美唄市に必要な地域医療機能の確保についてまとめている「地域医療マスタープラン」に基づいて見直すべきである。

#### 4 住民・患者の要求に基づく医療連携・地域連携

政府は、「再編・ネットワーク化」として、中核病院と連携病院による地域連携、広域連携(「サテライト構想」)を進めようとしている。縮小・再編を目的とした総務省の「サテライト構想」には賛成できないが、住民・患者の要求に基づく医療連携・地域連携は具体的にすべきである。

#### 5 公的責任は後退させない

政府は、「経営形態の見直し」として、経営は、指定管理者や民間委託にするなどの公的責任を後退させようとしている。公的責任は後退させることなく経営は自治体の直営とする。自治体病院を支えるために、一般会計からの必要な繰出しも行いながら、不良債務の解消と健全経営を目指すべきである。

#### 6 住民・患者の要求を取り入れる

地域医療の見直しについては、医療関係者のみならず、医療現場の労働組合や住民・患者の要求を取り入れ具体化する。また、市民も行政任せにするのではなく地域医療の在り方について積極的に発言し、提案型運動を展開すべきである。

資料1、資料2 「財政健全化と地域再生について」 省略

\* \* \* \* \*

10

なぜ役所は、茶志内福社会館での説明会で出た意見を率直にホームページに載せないのか？自分たちに都合の良い事ばかり、当たり障りのない事ばかりを載せ、都合の悪い事は切り捨て、物凄く腹立たしさを感じる。

11月15日のプレス空知を見たか、その場で出た意見を率直に記事にしている。しかも、昨日の道新に出た記事はなんだ、おおむね住民の理解を得たと思うだろ？ばか言うな、誰の理解なんてしてないだろう、本当にお前らのやっている事はデタラメばかりだ。

高橋はるみ知事は30%の給料カットを申し出ているのに、桜井市長は20%か？本当に危機感を持っているのか？民間企業の景気はどん底まで落ちていて、30%の給料カットにボーナスも出ない企業もあるのに。市長と職員の給料カット30%、人員は3割削減。これくらいの意気込みを見せろ、市民が納得しないだろう。

へき地保育所や幼稚園保育料等、子育てに関わる部分の値上げは絶対に止めてもらいたい。若い世代は給料カットなどの影響で年収は300万ちょっと、そこに来て値上げだの、廃止だのって、子供を作りたくてもつぐれない、美唄市に居たくても、住み心地が悪くてもうこれ以上住めない。

この計画は住民に説明するまでもなく、もう決められたプログラム。おそらく自分たちの給料は聖域には、もうこれ以上踏み込まないだろうな。美唄市は自立をあきらめ、合併先を探した方が良いのでは。このまま行けば人口減に歯止めが掛からず、住民にもっと厳しい生活を余儀なくされてしまう。みんな注目してますよ、市長、職員の給料カットの幅を。

(意見提出用紙に)住所、氏名、電話番号、アドレスを書き込めと言うのだから、何かしらあるんだろうな。担当:地域経営室とあるが、担当者名が無いじゃないか。われわれに名前を書き込めと言うのなら、担当者名前を入れる、失礼な役所だ。担当者名を送ってよこしなさい、それが礼儀って言うものだろう。本当に美唄市の役人には腹が立つ。

\* \* \* \* \*

11

～美唄市財政健全化計画にかかわる提言～

序

今日、日本列島を吹き荒れる「地方自治体」の危機的、崩壊的な財政状況を概観し特徴を分析するとき、その要因は1955年～73年にかけての高度経済成長から低成長にいたる経済変動への対応の遅れ「箱物建築物への過大な起債のツケ」とインフラに便乗した不要な公共事業と地方

自治体への起債 1990 年代後半以降の経済変動のディスインフレからデフレーションへの対応。

20 世紀後半の全国的な社会動向の変化「国際化・情報化・少子高齢化・大都市への人口の集中化・社会の病理現象の深刻化」等政治的対応の極端な遅れが、社会の混乱を惹起させたのである。小泉内閣に象徴される人格を否定する社会「格差社会・勝ち組負け組・被正規社員の増大とリストラ・ホームレス」等さらに消えた年金・医師不足に起因する医療問題は全国的な社会問題となってきた。

以上社会学的に概観したが、客観情勢をきちんと正確におさえおく必要がある。以下要点をまとめて提言することとする。

#### 1 財政の未納、滞納の解消について

市民税・固定資産税・都市計画税・市営住宅・軽自動車税・自動二輪税・学校給食・医療費等の未納、滞納の状況と解消への取り組みについてまたその成果について公表することとする。

#### 2 美唄市職員の人員と人件費削減について

各部、各課、各係の職員数の見直しと正規職員を最小限として、臨時職員の採用配置により人件費をおさえこむ。

学校・給食センター労務職員・図書館等の臨時職員化を図る。職員給与については、完全に美唄市財政健全化にいたるまで 20%削減を実施する。出張旅費等の見直しを図る。併せて教育委員、農業委員、選管委員等の歳費削減。

#### 3 美唄市議会議員の定数および歳費等の削減

市議会議員提案となるが、市議定数を地方自治法にのっとり現 16 名から 12 名に削減する。歳費も議長以下 25%削減する。道内外視察は財政健全化するまで凍結。

#### 4 小中学校の統廃合の推進

少子化による児童生徒の減少により、複式または類似する小規模校にあっては教育効果を期待する観点から適正規模の統廃合を進めることが望ましいとされる。

具体的には、小学校 3 校区 中学校 3 校区。

中央小学校区（西美唄小・茶志内小学校を統合） 東小学校区（東栄小・南美唄小を統合） 峰延小学校区

美唄中学校区 東中学校区（南美唄中を統合） 峰延中学校区

#### 5 市立美唄病院財政問題について

滝、井坂、両市政の無為無策な市立病院経営は「病院事業会計」の赤字たれ流しによるツケが、市民に大きくのしかかっている。

約 23 億 5 千万円の累積赤字の原因は明白である。労災病院との両院存立は人口比（少子高齢化）との面から、厳しいことと予測されていたのである。両院ともに競合する「総合病院」としての機能は、中長期的展望に立っての経営感覚を失っていたのではないかと。市立病院としての特質、特徴を發揮すべきであったと思われる。例 産婦人科・内科（心療系・循環器系）・腎機能障害血液透析 等を充実発展させるようなことに視点を置くべきだった。病院会計の人件費の占める割合が以上であり病院経営の合理化の視点に多く欠けている。累積赤字の根源は人件費の占める割合である。事務部門の職員の多さ、看護師看護助手職員数の多さ（基準との無調整のまま推移してきた）合理化に反論反対する職員組合に無原則に従う理事者の姿勢が今日の累積赤字の要因である。当面「特例債」に依拠することはやむをえないが、将来市立病院の経営はどうあるべきか真剣に議論することが求められている。そのためには、病院職員の大幅削減、病院経営観を抜本的に改めることである。1F 血液透析センター施設 2F 診療所

診療科目（内科）3F～4F 老人養護施設（例 コミュニティホーム美唄）に再編成 市立病院から民間民営診療所へ移行する前提として、「市民アンケート」を実施して市民の意向を分析し建造物を移管して「民営診療所」として出直すべきと思う。

まとめ

美唄市は、累積赤字を解消し財政健全化するまで、中長期の視点に立って前述の市税の未納滞納の解消に全力をあげること。徹底したムダ解消。歳費給与等の削減。市議会議員・市職員の定数削減。市民負担の軽減（負担増は市民の市外逃亡増大となる可能性・夕張の例）

美唄市の活性化のために、市民の燃えるエネルギーを束ねて農業・商工業振興を中核に食・観光・スポーツ等に心血を注ぐことが求められている。

とにかく官民の力量を結集することが危機突破のカギとなるだろう。

\* \* \* \* \*

12

民間企業の決算でも減益及び赤字の数が多く雇用の面でも人員整理など、厳しい状況の中、美唄市の職員の給料及び諸手当は美唄市の中小企業に働く方々との差があります。財政健全化のため次のとおり提案をします。

特別職の内、市長、副市長、教育長についての給料及び諸手当は、現行の 50～60%を減額し 2015 年度まで実施する。また、市議会の議長、副議長、議員の給料及び諸手当については 60～70%減額し、議席数は現行とし、2015 年まで実施する。一般及び臨時職員の給料及び諸手当は、40%～50%の減額を 2015 年度まで実施する。

職員数については、現状のままとし退職による補充については最低人員確保を美唄に住む事を条件に近隣の高校出身者を含めて採用する。退職者が続出の場合は最低人員確保には有償ボランティア、OB を採用する。老人パワー、障がい者パワーを活用する。

市職員に対する福利厚生会などの負担金の廃止は同意する。

他市町村から市役所へ通勤をしている方には勧奨退職をする。

市営駐車場については有料とし、管理は有償ボランティア、障がい者を採用し、営業時間は 9時から 16 時とする。職員の駐車場の有料化に同意する。

市民の税、負担金、使用料、手数料については現行のままとする。

社会福祉協議会への補助は全額廃止し自立を促すが、ボランティアセンターに対しては、強化策として、3,000 千円補助し、ボラバイト、有償・無償ボランティアの育成として、調整員として有償ボランティアに担当してもらい、その事務用代などの費用とする。財団法人に対する 7,000 千円の補助についても全額を廃止し、自主運営を促すが、生ゴミの処理事業を受けてもらう。その事業を財団法人が拒否の場合は補助金 0 円とする。

リサイクルに結びつく収集ボランティアについて送料の実費を全額補助する。1,000 千円を予算化する。防災活動、障がい者、難病者関連、季節労働者など雇用関係の事業への補助は現行のままとする。

庁舎等の清掃などの委託業務は、高齢者、障がい者、生活保護受給者の労働力を最低賃金又は有償ボランティアを利用する。

税金未納者は毎月さいそくをする。

廃止予定の建物を利用して「精神障がい者地域支援センター」を誘致してはどうか？

市役所内の組織のグループ化を提案します。井坂市長時代提案をしましたが、職員組合の反対で実施されなかった。

市長、副市長、教育長の給料及び諸手当は現行の 50～60%を減額する。

市議会議長、副議長、議員の給料及び諸手当は現行の 60～80%減額する。

一般職員の給料及び諸手当は現行の 40～50%減額する。いずれも 2015 年度まで昇級はなしとする。

社会福祉法人・社団法人などの法人への補助は全額廃止する。法人の職員の話では人件費、管理費の補填として市に申請認可で多額の補助金を行っているとのこと。補助金にあぐらをかいているのが職員の実態であり民間企業等であれば労務倒産に援助しているような感じで、自立を促

すことが必要であります。補助をやめて月毎の融資として年度末に回収する。

前記で減額した資金の一部を原資に他市町村にもある「市民活動センター」を創設することを検討願いたいものである。

財政再建には、ボランティアの支援も不可欠と思われます。そのボランティア（ボラバイト、有償・無償ボランティア）を養成したり、コミュニティビジネスの育成、高齢者のパワー、障がいのある方々のパワーの共有化をボラバイト、有償・無償のボランティアを通じて調整などに努める。調整後、進行後のスタッフ補助は有償ボランティアが応援する。

院内開業医師の募集をしてはどうか？

内科入院再開の方策を考え、だめな場合は民間譲渡する。それも不可能であれば、廃業し建物、土地の売却を検討すべきと考える。

\* \* \* \* \*

13

全体についての印象

1)小役人特有の無自覚、無責任、怠惰、責任転嫁

市民会館で行われた説明会において、やれ地方いじめだ、イエローカードだ、旧産炭地だ、地方病院はどこも赤字だなどと何度も繰り返していたが、これらの状況は今に始まったことではない。

2)市長と市役所は国を避難する資格はない

説明会では「地方いじめ」という言葉が、市長および担当職員から出されたが、アリバイ的・申し訳程度の努力（これまでの給与カットの期間が極めて短く、かつ少額）しかせずに市民に負担（増税や福祉の切捨て）を求める行為は、「地方いじめ」の構図をそのまま地方自治体～市民の関係に持ち込んだだけである。努力もせずにひと様の財布・資産をあてにする性根はいかなるものか。

3)市長と市役所に覚悟がない

兵庫県加西市は、早期健全化団体に陥っていないにもかかわらず、骨身を削る努力を行っている。たとえば加西市長の給与削減は30%にもおよぶ。北海道庁も同様で、一般職員は一昨年より10%削減、今年度から7.5%の削減だ。ひるがえって美唄市の状況を見ると、市長以下3役の給与を最大20%下げ、一般職員も15%下げるだけだという。そして、これまでは1年程度4~5%削減したに過ぎない。これをアリバイ的・申し訳程度の取り組みといわずして何という？

もう少し踏み込んで述べると、美唄市長の月給は約80万円だというのが、それで仮に加西市と同様に30%下げたところで56万円になるだけだ。全国の市長の一般的な給与に比べれば確かに安くなるが、それで生活が逼迫するような定額では決してない。一般市民の窮状がまったく理解できないのも理解できる。そんな無理解による圧政は、福祉タクシーや特定疾患患者等支援事業、母子・父子家庭等支援事業、季節労働者就労対策事業の廃止、保育料や放課後児童施設負担金を引き上げなどにも端的に現われている。

4)市長と市役所がしてきた努力とは

兵庫県加西市のホームページを見ると、これまでや現在の取り組み、そして財政の健全の程度についてしっかり情報が載せられている。このような活動を情報公開というのだろう。ところが美唄市は？どこを検索すれば同様な情報が得られるのか？美唄の財政状況については広報誌メロディで収支の数値が羅列されているだけで、専門家でなければ評価できない状況だ。また、説明会での資料やメロディ12月号をみても、どこにも「早期健全化団体」という言葉が見つからない（あるのかもしれないが、すぐに見つけれられないような記述の仕方なのだろう。）あえて秘匿する努力をしてきたとしか思えない。

個別の点での意見と質問

・意見1 今までの無責任・無自覚・怠惰に市制を運営してきた者たちに、財政再建などできるはずがない。資料「素案のポイント」3ページに「財政健全化策の効果」が載っているが、小役人が自分たちに都合の良いように甘い見積もりするのは今に始まったことではない。プロの経営コンサルタント等に委託すべきだ。ただし、市役所の立場に立ってあげると、厳しいこと(減員や給与の大幅減額)を言われるから委託したくないという気持ちは良く理解できます。

・意見2 今まで何をしてきたのか、そしてそれによってどんな効果があったのか、総括して数値データごとに一般市民に示しなさい。場当たりしのぎだったと批判されたくないから、一般市民に情報を提供しないのではないか。

・質問1 市税の増税や福祉の切り下げをいとも簡単に打ち出しているにもかかわらず、経営戦略をまったく示すことができない「食の駅」構想を取りやめないのは、なぜか。「食の駅」は、それが大名商売であることを理解できない小役人の浅知恵である。

・質問2 ところで、「戦略」の意味はご存じですか？

・質問3 市立病院にしる、市の財政にしる、近々数年で経常黒字や健全化を実現する、と主張している。もしできるのであれば、なぜ今までやってこなかったのか？また、期限内に実現できなければ、誰が、どのように責任を取るのか？それを示しなさい。どうせ、誰も責任を取るつもりなんてないのだろう。「委員会が決まったことだから」、「会議で決議したことだから」とか言って責任の所在をうやむやにってしまうのは目に見えている。

・質問4 同様なことは、「食の駅」構想についてもいえる。1円でも赤字を出したら、市長はどのような責任を取る予定でいるのか説明しましょう。

この意見提出用紙について

実名や住所を書かせるのはいかなものか。それ自体で、仕事上、やりづらくなるからと意見を提出しない人だって出てくるだろう。生活保護等を受けている人も出しづらいうだろう。それが狙いなのか。ここにも小役人特有の浅知恵が認められる。無記名であろうがなかろうが、そして美唄市民であろうがなかろうが、誰であれ、意見質問をよこしてくれるのはありがたいと思うべきものである。それが単に罵詈雑言であったとしても、甘受すべきもののはずである。企業のクレーム処理が、どのような視点に基づき行われているのか、もう少し勉強されたら良いのでは。この点一つとっても、市長および市役所の財政健全化に対する覚悟の程度が知れる。

\* \* \* \* \*

14

1 地方交付金の激減が市財政に重大なひずみを与えたので、国に対し交付税の増額を強く求めるべきです。定額交付金を止めさせる道路財源から配分される交付金は市町村の健全財源にするよう、国に対し要求する。

2 市職員の15%カットは、生活権に関わる重大な問題です。市職組と十分な協議を行い、可能な限り給与減額しない事。

3 市民の負担は一定の部分は止むを得ないと考えるが、生活弱者に対する負担の増大は生活が破壊されます。下記の内容は強行しないこと。

(1) 障がい者移動支援(福祉タクシー)、

特定患者等支援事業の一部(交通費助成)等弱者に対する配慮をすること。

4 市立病院を廃止すべき等の意見が強くなっている様に思われます。市民の命と健康を守るためにも市立病院の存続は大切です。今後共、医師確保に全力を上げて下さい。